
3-(2) 高大連携に関する取り組みについて

今日、高大連携の取り組みは、全国的に広がっており、その目的・形態・手法は多様である。これまでの高大連携は、高校生の進路学習の一環として、大学の教育資源を活用した連携事業（出張講義・講演会等）が多かったが、今後の新しい高大連携は、高大の教員が主体となり、教育の連続性を見据えた「対話型」（双方向型）高大連携をおこなうことが求められている。

こうした中、本学では、高校や地域の実情に応じて、「学生募集を目的とする事業」「地域貢献を目的とする事業」「高大一貫(高大接続)を目的とする事業」の3つに分類し、目的別に高大連携事業に取り組んだ。

1) 龍谷大学附属平安中学校・平安高等学校の教育展開

2008年4月から本学の附属校となる平安高等学校とは、附属校としての教学内容について検討をおこなった。これまでプログレスの主要5教科のカリキュラムについて検討をおこなってきた教科ワーキンググループを中心に、附属化後の新たなプログレス・クリエイトのカリキュラムや学習システムについて検討をおこなった。また、学内関係機関において、附属校の生徒一人ひとりが将来の自分を明確にイメージして、主体的に進路選択ができるような課外教育プログラム（高大連携キャリア教育プログラム）の実施について検討するとともに、新たな協議会組織の設置、附属校生対象の入学試験制度についても検討を開始した。

なお、同校とは事前学習プログラム（入学前学習）等を実施するとともに、新たに教育連携校推薦入学試験合格者を本学に集め、入学前オリエンテーションを実施した。

2) 教育連携校・関係校との教育連携

北陸高等学校（教育連携校）とは、出張講義や事前学習プログラム（入学前学習）等を実施した。また、特進龍大コースが廃止されたことに伴い、2008年度以降の新たな教育連携プログラム及び推薦入学試験制度について検討をおこなった。

崇徳高等学校（教育連携校）とは、高大の系統的な教育を実現するために、教育連携事業のプログラム化を図り、出張講義や事前学習プログラム（入学前学習）を実施するとともに、平安高等学校と同じく、新たに入学前オリエンテーションを実施した。

また、地域戦略上、重要と考えられる近畿圏の新たな拠点として、関係校である神戸龍谷高等学校（兵庫県）と包括協定を締結し、教育連携校として位置づけた。

3) 一般高校との教育連携

指定校重点校化の一環として、2007年7月に上宮高校（大阪府）と高大連携に関する協定を締結した。これに基づき、同校の生徒に大学進学に対するモチベーションや学びの意欲・関心を喚起するために、進路選択に役立つ高大連携プログラムを提供するとともに、それに基づく新たな推薦入学試験制度を導入した。

さらに、高校の進路学習の支援のみならず、高大連携の双方向化に向け、本学との関係強化が求められる京都府、滋賀県、大阪府、奈良県の指定校 13 校と高大連携に関する包括協定を締結した。

4) その他の連携事業

地域貢献を目的とする事業の一環として、滋賀県教育委員会との協定に基づき「滋賀県立高校生徒を対象とする大学連続講座」を実施し、瀬田学舎の 3 学部から講座を提供した。

なお、当初計画していた京都府内、滋賀県内、大阪府内にある教育委員会（すでに本学と協定を締結している教育委員会を除く）との提携については、関西地区の指定校との包括協定締結を優先し、次年度に提携を申し入れることとした。